

令和四年度 奈良県知事賞

税金の制度で暮らしを守る

奈良県立香芝高等学校 一年 中村 咲月

最初にはっきりさせておきたいことは、私が税金の制度に賛成しているということだ。その理由は、言わずと知れたことだが私たち国民に課せられた義務だからである。否、そもそも税金の制度を無しにして社会は成り立たないのだ。この制度が存在しなくなれば、私たちの日常は崩壊するだろう。しかし、この制度に反対する人々がいるのも事実である。これらのことから浮かび上がる現状の課題は、国民が安心して納税の義務を果たすことのできる社会づくりと、それによる豊かな暮らしを守り、持続させるというものである。

先に述べた課題を解決するに当たって、当然だが国の機関に任せきりではいけない。これには、一人一人の国民が納税を行う当事者である自覚と責任を持って向き合うべきである。明るい日本の未来のために、私たちには何が求められるのだろうか。

まず、私たちは納税した税金の使い道を正確に理解する必要がある。それが納税者としての責任であると同時に、税金の制度への信頼に繋がると思うからだ。大切なお金を国に納めるのだから、誰もが制度に対して慎重になるのは至極当然である。だからこそ、税金に関して誤解や不信感が生まれることは避けたい。さらに、現代のインターネットが普及した世の中では、拡散による誤情報の影響力は恐ろしいものだ。自分が拡散する側にも影響される側にもならないためには、やはり税金の使い道を正確な情報から知ることが納税者である私たちの重要な役割なのだ。

結局のところ、無知であるが故に生じる負の連鎖が納税者や税金の制度、そして税金によってもたらされている豊かな暮らしを脅かすのだ。私たちには、納税者として日本の未来を担うための責任ある行いが求められる。すべては、私たちが安心して納税による豊かな暮らしを送ることのできる社会を守り、さらにその先の世代へ持続させていくためである。私個人の願いとしても、教育や医療、その他の様々な公共施設などで幼い頃から受けてきた税金による恩恵が、未来の日本の子どもたちにも行き渡る世の中で在り続けてほしい。そのために私は、成人を控えた納税者であり、一人の日本の未来の担い手としての自覚と責任を持った行いをしようと思う。この先の日本を生きるすべての人々の幸せが、税金によって多くもたらされることを強く願っている。